

## はじめに

西川長夫

本研究の報告(3)には、2008年8月13日に東京西荻窪のこけし屋で3時間半にわたって行われた吉田嘉清氏と竹内良能氏へのインタビューを掲載することができた。インタビューは主として学生運動や政治・社会運動に詳しい今西一さんをお願いして、他にも当日出席していただいた早稲田大学の長瀬隆教授(ロシア文学)、松下忠夫、松下静枝両氏にも発言していただいた。当日出席した私たち研究会のメンバーは今西一氏の他に西川長夫、岩間優希、原佑介、の4人である。インタビューのテープ起こしは岩間、原両君をお願いし、それに今西氏が手を加えるという形をとった。

吉田、竹内両氏のお話は、戦後史の隠された部分に関する貴重な証言を含み、微妙な表現も出てくるので、今西氏に詳しい解説の文章を書いてもらった。その今西氏の解説「早稲田大学：1950年—歴史の証言—吉田嘉清・竹内良能氏に聞く—」の第4節「スパイ・リンチ査問事件」の後半には、松下清雄氏が病床で静枝夫人の手をかりて書き残した証言の全文が掲載されている。この文章のコピーは、最初に松下さんのお宅にうかがったときにいただいたものであるが、内容の重要性と現存されている方々への配慮もあって公表を躊躇っていた。この機会に静枝夫人の許可をいただいて思い切って掲載することにした(ただし人名等一部省略)。この証言は松下清雄氏の党との関係やその後の転身、農民運動やさらには小説の主題などに深くかかわっており、今後さまざまな角度からの解説が必要とされるであろう。

なお本号には上記吉田・竹内両氏へのインタビューの他に、前号所収の「松下清雄文庫」目録の後半の二分の一、および自伝的小説「少年の冬」の後半が収められている。次回には前回予定していた収録できなかったいいだも氏の文章と伊藤淳史氏の論考の続編、そしてできれば2,500枚の長編小説『三つ目のアマンジャク』に関する論考を掲載したいと考えている。

